

職員による自己評価

A環境面

- ・前年度に続き男性職員を求める声がある。
- ・曜日によって職員の不足を感じる。
- ・活動スペースをもっと有効的に使えないか検討する必要がある。

B児童への支援内容

- ・プログラム担当日を割り振り固定化しないよう継続している。
- ・登校日と休業日での課題設定は不十分。
- ・集団での活動では障がい程度に合わせ全員が関わられるよう工夫している。
- ・毎日ミーティングを実施し前日の支援の振り返りを行い情報共有している。
- ・研修など資質向上の取り組みの更なる充実。

C関係機関との連携

- ・学校、相談員とは情報共有を実施しているがそれ以外との関わりが薄い。
- ・自立支援協議会に参画していない。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・毎月会報を配布している。
- ・保護者への療育面での相談に適切に対応できているか不安な回答が多い。

E非常対応

- ・毎月避難訓練を実施している。
- ・各種マニュアルの見直し、更新が実施されていない。

保護者による評価

A環境面

- ・活動スペースについては確保されているとのこと意見が多くあり。バリアフリーや設備についても同様。フロアのパーテーションを撤去してもいいのでは?とのこと意見あり。

- ・職員配置について、男性職員の増員希望や日々の人数、全体の職員数が分からないとのこと意見あり。

B児童への支援内容

- ・個別支援計画書の作成、プログラム内容についてはご意見、ご要望なし。
- ・外部の児童との交流は持っていないため、「いいえ」や「分からない」が多い。

C事業所からの情報発信

- ・苦情対応の体制整備、周知について「分からない」とのご意見あり。
- ・保護者会などの開催について、開催されれば参加したいのご意見もあるが、希望されない方もいる。

D非常対応

- ・避難訓練の実施は周知されてきている。
- ・各種マニュアルの周知、説明に関して把握できていない保護者様がいらっしゃる。

E満足度

- ・子どもが楽しみにしている。支援に満足して

事業所内での分析

【共通点】

保護者様、職員ともに男性職員の増員を希望する声が多い。
配置人数の曜日でのばらつき、配置人数が不明など、職員体制に疑問の声がある。

【相違点】

大きな認識のズレはないと感じる。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 人員体制にもよるが、広いスペースを活かし多様な障がい児の受け入れが可能。
- ・ 個室が複数あり落ち着ける環境を作りやすい。
- ・ 事業所周辺の交通量が少なく、気軽に外遊びに行ける。
- ・ 職員個々の特技を活かしたプログラムを取り入れることで、幅広い活動が行えている。
- ・ 隣接する特別養護老人ホームの入居者様や職員と交流を持てる。
- ・ 敷地内の畑で収穫体験ができる。

事業所の改善点

- ・ 職員体制の見直しと保護者への周知。
- ・ マニュアルの見直し、更新。
- ・ 使用されていない活動スペースの活用方法。

事業所の改善への取り組み

- ・ 男性指導員の募集。毎月の会報とは別に、更新した職員一覧表を配布する。
- ・ 職員の増員に合わせ、あまり使用されていないスペースの環境整備を進める。
- ・ 各種マニュアルの更新後、保護者へ HP、アプリなどで公表し周知に努める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・ 令和 5 年度は保護者様のご理解とご協力のおかげで、ご利用児に大きな怪我もなく元気に過ごすことが出来ました。ご利用児も学年が上がるに連れて身体も大きくなり 1 年の成長を感じます。アンケート意見にもありましたが、身体が大きくなるにつれて、介助負担や活動量増加など男性指導員が必要な場面も今後発生すると感じています。令和 6 年度は男性指導員の増員ができるよう、一層取り組みたいと思います。また、活動においても更なる創意工夫を重ね、ご利用児が楽しみながら成長を遂げられるよう、職員一同より良い支援に努めて参ります。

事業所名 _____ ころ

担当者 _____ 日景 昌平